

## 韓国における日本学の現状と課題

金 善 民

### (1) 日本学の胎動

戦後、韓国における日本研究は他の地域に対する研究より遅れていた。その主な理由は日韓の不幸な歴史的関係とそれに起因される社会・政治的な状況である。このような状況のなかで、日本を研究対象として定立させるのには様々な制約があった。

それが1960年代に入って、米蘇冷戦構造に伴う日韓協力体制の強化が必要になり、日韓政府がお互いに政治的に密着するようになった。その結果が1965年の日韓国交正常化である。また、日本の急速な経済発展が世界的な注目の対象になり、一般的な発展モデルとした観点で日本を研究する動きが出始めた。その時期、主な研究結果は社会学と経済学からのものである。

社会学では一般理論から出発し、両国の社会構造を比較分析する研究が主流であった。一方、経済学では、日本が1960～1970年代に達成した経済発展を分析し、日本の発展モデルをそのまま韓国に適用してもいいのかが重要な関心事であった。これらの研究は当時韓国が直面していた社会・経済問題を解決するための実用的な必要性から生まれたものである。

### (2) 現在の全般的な研究状況

1980年代以降韓国における日本研究の関心領域は拡大され、人文・社会科学のあらゆる分野で研究対象になっている。その研究傾向も実用的な研究からそれぞれの分野での独自の研究への転換、そして関心領域も拡大されつつある。つまり、多様な分野で深化された研究が行われ、広い範囲で日本文化を総合的に理解しようとする傾向が出始めた。また、日本の経済的不況に対する全般的な批判や日本の国際的位相に対する根本的な問題提起、或は日本政治の混乱に対する再検討する独自の研究も本格的になされている。

特に、この時期から注目すべきことは大学内部に日本学科を設置する大学が増えたことと学会の活性化である。まず、日本学科は総合的かつ体系的に日本を理解できる専門家を育成する目的で設置されている。

従来、韓国では日本語・日文科という名称のもとに日本語や日本文学の教育を中心とした学科が殆んどであった。もちろん語学・文学も日本を研究対象にしているが、歴史・社会など日本に対する総合的な研究が欠落したままでは物足りないところが多かった。然し、日本学科の設置は体系的かつ総合的な日本学研究のためには画期的な出来事である。最近、日本学科を名乗る学科が増えていることは韓国社会の日本観の変化を反映しているものの、日本研究が一層発展していく契機になるだろう。注目すべきことは、日本学科の設置によって研究者たちの就職口もある程度解決され、より良い環境のなかで研究に専念出来るようになったとも言える。

このような環境の変化は日本を研究対象とする学会の活性化にも大きく役に立っている。現在人文・社会科学に限っても、学会の数は40を越えている。内容の面でも、他の学会より活発な活動を見せており、高い水準の論文が発表されている。

### (3) 日本学研究の課題

(表1)は世代別の学問分野のなかで主に日本を研究対象としている研究者が占めている比率を表にしたものである。これを見ると七〇～五〇歳までの研究者は日本を対象にした研究はあまり行っていない、反面、1970年代に大学へ入学した四〇代の研究者の日本研究が占める比率が殆んどである。これは前述したように1980年代以

降活発になった日本研究の現住所をよく表している。にもかかわらず、研究領域の拡大や精神史・思想などの内面或は本質に関わる研究がまだ少ない。しかも日本学科の場合も体系的な教育環境を整えているとは言にくい。さらに、研究成果の蓄積や補習システムの整備、または学際間交流による総合的な研究までは及んでいない。一つ、幸いなのは欧米で日本学を研究した経験を持つ者と、日本での研究経験を持つ研究者たちが同じ学科で教育に当たっていることである。このような交流によって欧米や日本とは異なる韓国独自の日本研究が可能になると思う。

<表1> 世代別学問分野

\* ( ) の%、は各学問別研究者のなかで日本を専攻にしている研究者が占める比重である。

	経済学	社会学	人類学	政治学	合計
70代	1( 1.81)	3(12 )		2( 2.24)	10( 4.21)
60代	5( 9.09)	2( 8 )		15(15.85)	29(12.23)
50代	12(21.81)	1( 4 )	2(18.18)	14(15.73)	34(14.34)
40代	30(54.54)	16(64 )	5(45.45)	31(34.83)	111(46.83)
30代	5( 9.09)	3(12 )	4(36.36)	26(29.21)	48(20.25)
	2( 3.63)			1( 1.12)	5( 2.10)
合計	55(23.20)	25(10.54)	11( 4.64)	89(37.55)	237

**金 善民 (Kim, Sun-Min)**

1957年生。1986年高麗大学大学院東洋史専攻修士課程修了、1999年早稲田大学大学院博士後期課程修了（文学博士）。淑明女子大学校文科大学日本学科助教授。日本古代史、文化専攻。主要論文に「古代の日朝における博士の諸問題」（『日本史年次別論文集』、朋友出版、1994）、「『日本書紀』に見える祥瑞関連記事について」（『慶大史論』第9輯、1996）、「百濟王氏の成立過程の再検討」（『淑大史論』第22輯、2000）、「『日本書紀』に見える豊璋と翹岐」（『日本史研究』第11輯、2000）、「桓武朝と百濟王氏」（『日本史研究』第12輯、2000）等。